

令和 8 年度も赤字を見込む

現行料金の上昇だけでは厳しい
経営状況が続く見込みです

令和 8 年度予算では、当年度純損失を約 6,125 万円と見込んでいます。県営水道の受水単価の引き上げに加え、物価・人件費の上昇や、老朽化した管路・設備の更新に必要な費用も経営を圧迫しています。

県水料金 21%増

61.78 円 / m³ → 74.74 円 / m³
令和 8 年 4 月から 21.0%増

水需要の減少

一日平均有収水量
令和 7 年度実績 約 3,924 m³ / 日
↓
令和 17 年度 約 3,423 m³ / 日

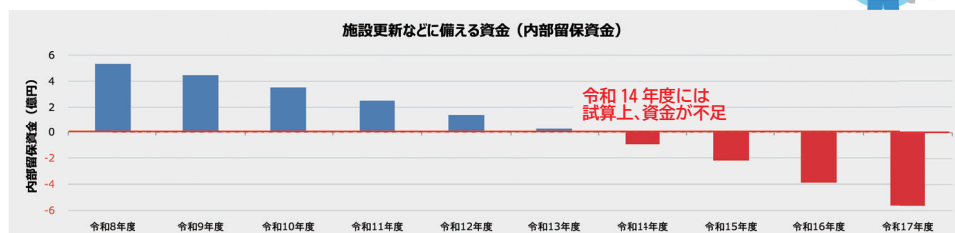
物価・人件費の上昇

物価や人件費の上昇により
施設の維持・修繕にかかる費用が増加

施設更新の継続

老朽化した管路・設備の更新が必要
更新費用：令和 9 ～ 17 年度 約 1.6 億円 / 年

財政シミュレーションによる今後の見通し



現在の料金水準を維持した場合、令和 9 年度以降も赤字が続く、その赤字を補うため、施設更新などに備える資金（内部留保資金）も減少します。試算では、内部留保資金は減少を続け、令和 14 年度にはマイナスとなる見通しです。

このままでは水道管や施設更新などに備える
資金が無くなり、安心・安全な水の供給がで
きなくなる恐れがあります。

町では料金値上げに向けた審議を進めています

町では、これまで経費削減や業務の見直しなどにより、約 30 年間料金の値上げをせずに水道事業を維持してきました。これからも安心・安全な水を安定して

お届けするため、「鳩山町水道事業審議会」において、必要な料金収入の水準や料金体系について審議を進めています。

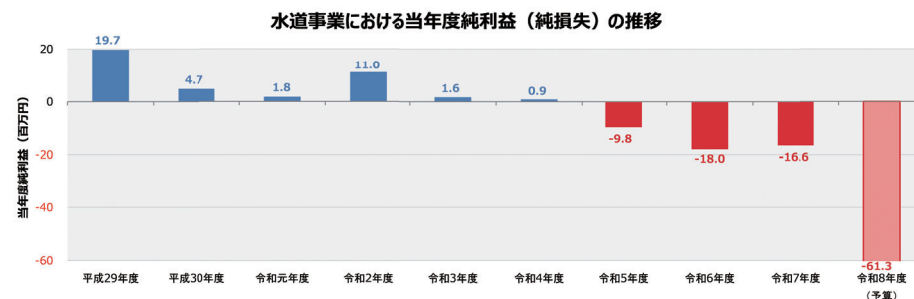
特集 2

埼玉県営水道値上げに伴い、町水道料金の値上げを検討中

令和 7 年度決算による 水道事業経営状況のお知らせ

令和 7 年度の鳩山町水道事業決算は、**当年度純損失約 1,657 万円**となりました。令和 5 年度から**3 年連続の赤字**です。水道事業は、利用者の皆さまからの水道料金で必要な費用をまかなう「独立採算制」を基本として運営しています。赤字が続くと、水道管や施設の更新・修繕に必要な資金が減少し、将来の安定給水にも影響します。■問合せ 役場上下水道課 ☎ 296-1228

令和 7 年度決算で約 1,657 万円の純損失



※令和 7 年度までは決算額、令和 8 年度は収入と支出の差

令和 7 年度は、収益的収入が約 2.50 億円、収益的支出が約 2.67 億円となり、約 1,657 万円の純損失を

計上しました。さらに、令和 8 年度予算においても約 6,125 万円の純損失を見込んでいます。

令和 7 年度の料金回収率

料金回収率は、給水に係る費用がどの程度皆さまからの水道料金でまかなえているかを示す指標です。100%を下回ると、水道料金収入だけでは費用をまかなえていないことを示します。

給水原価	供給単価	料金回収率
168.99 円 / m ³	145.30 円 / m ³	86.0%
給水原価:1m ³ の水を届けるために必要な費用 供給単価:1m ³ あたりの平均料金収入		

赤字が続く主な要因

収入の減少

給水人口の減少や節水機器の普及などにより、水の使用量は減少傾向です。年間有収水量は令和 5 年度の約 146.6 万 m³から令和 7 年度は約 143.2 万 m³となりました。

支出の増加

物価・人件費の上昇に加え、老朽化した施設の修繕・更新に費用を充てたためです。令和 7 年度は、老朽管の更新に約 3,400 万円、約 1 km の工事を実施しましたが、老朽管の更新率は 9 年間で 15% となっており、思うように進んでいません。